

たくましく
心豊かな
地球市民



瞳かがやく 附属松本中の子ら

すずかけの森

令和8年3月17日 (火)

信州大学教育学部
附属松本中学校
学校だより No. 10



春，巣立ちの時 ご卒業おめでとうございます

寒さの厳しい冬が終わりを告げ、春のうららかな日差しが降りそそぐ中、明日は卒業式を迎えます。卒業生156名が巣立つとき、それは新たな道へ大きな一歩を踏み出す節目のときでもあります。

16日に行われた3年生を送る会では、1・2年生から心のこもったメッセージとして「3月9日」の合唱と附中の応援が3年生に届けられました。3年生は「正解」を立派に歌い上げ、附属中を後輩たちに託しました。また、校長先生によるギターの弾き語り「僕のこと」が披露され、自分を信じて前に進んでいこうとする温かなメッセージが会場いっぱいに広がりました。今年度の附属中をともに創り上げてきた仲間として、互いの歩みを確かめ合うような、優しさがあふれる時間となりました。

明日18日の卒業式をもって、本年度の学校生活を締めくくります。生徒たちは、自ら学校生活を創り上げていくたくましさを存分に発揮した一年でした。この間、保護者の皆様からいただいたご理解とご支援に、心より感謝申し上げます。

卒業生の皆さんの前途が、明るく希望に満ちたものとなることを心から願っています。



後期終業式 校長先生のお話

学校長 牧野 圭介

皆さんにとって、「たくましく 心豊かな 地球市民」を目指して取り組んだこの一年は、どのような時間だったでしょうか。

4月に皆さんと出会ってから、もう一年が過ぎました。体の成長や学力の向上はもちろんですが、あの日から「心」はどれほど成長できたでしょうか。

友だちの思いに気づき、行動に移すことができるようになりましたか。

自分の弱さに向き合い、それを乗り越えようとする力を育てることができましたか。

1年生は、「学校の宝」として、2年生は「学校の柱」として、3年生は「学校の顔」として、それぞれの立場で日々を過ごしてきました。楽しいことばかりではなく、悔しさや悲しさ、つらさに出会った人もいます。青春の荒波は、ときに厳しいものです。

しかし、その一つひとつの経験こそが、皆さんを確かに成長させてくれます。振り返ったとき、きっと「必要な時間だった」と思える日が来ます。この一年を、そしてこの仲間と過ごせた奇跡に、どうか感謝の気持ちをもってほしいと思います。

お互いに感謝を込めて、拍手を送ろう。

ありがとう。「人」という漢字が表すように、人は支え合って生きている。そのことを忘れないでほしいと思っています。



卒業記念品

今年度の卒業生より、卒業記念品として「校旗」をいただきました。卒業生、そして、保護者の皆様、大変ありがとうございました。大切に使用させていただきます。